



楓の誉

R4.1.14(第10号)
文責: 瀨上 佳宏

国際的視野を広げること

少し遅くなりましたが(松の内でもありませんので)、明けあげましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

「一年の計は元旦にあり」と言われますが、皆様はどのような抱負や願いを持たれたでしょうか。私(校長)は、初日の出に「合志楓の森中学校が大躍進する年になりますように」とお願いをしました。本年四月からは、一・二学年のみの特殊な中学校から、三学年全部揃った通常の中学校に変わります。つまり、「新設校である合志楓の森中学校の真価が問われるのは今年」ということかもしれません。

さて、冬休み前集会・後集会の校長講話では、二回にわたって「国際的視野を広げること」というテーマでお話をしました。

もはや「IoT」という略語は、聞き慣れた言葉になりました。「モノのインターネット」と訳されるように、PCやスマホ、タブレット等に限らず、あらゆるものがインターネットにつながる時代です。このような革新技術に「半導体」は不可欠な部材ですが、現在、世界的な半導体不足が生じています。

そのような中、半導体製造の世界最大手、台湾の「TSMC」の熊本県(菊陽町)への進出がニュース等で話題となっています。この件については詳細を述べませんが、生徒たちが生きていく近未来社会(ソサイアティ5.0)は、さらに世界と競争したり、依存し合ったり

が進むであろう「グローバル社会」であること
を実感させる動きと言えるでしょう。

一方、本校の生徒たちは、本年度のたった九ヶ月間で、様々な学習にタブレットを活用できるようにになりました。研究指定校でもないのに、ここまで活用が進んでいる学校はほほないだろうと自負しています。言い換えれば、生徒たちは「世界とつながる手段をいち早く身に付けつつある」とも言えるでしょう。しかし、それだけで果たして世界とつながることができるのでしょうか? もちろん「英語」は大事です。それに加え私は、「国際的視野」が重要になってくると思っています。

私見ですが、国際的視野を広げるためには、

- ① 国際的な共通語である「英語」を使いこなす力を含めた「コミュニケーション能力」
- ② 多様性を受け入れられる頭と心の柔軟性
- ③ 自国と他国の文化や伝統を尊重する態度とその基盤となる深い教養や豊かな人間性
- ④ 自分(日本)だけの利益ではなく、他者(世界)にとつての利益も考えられる視点
- ⑤ 自分の意見をしっかりと持つための真実を見抜く力や論理的に物事を考える力

などが必要だと思えます。とにかく合志楓の森中の生徒たちに「井の中の蛙」にはなつてほしくない。併せて、合志楓の森中は国際的視野を広げやすい環境にあるとも思っています。

今、目の前にいる生徒たちが、社会で活躍している二・三十年後の近未来、世界はどのように変貌しているのでしょうか。世界の方が身近にやってくる。いや、世界はもう身近にあるのです。「国際的視野を広げる」という視点を本校の教職員・生徒たちと共有しながら、果敢に攻める教育を行っていききたい。令和四年冒頭の校長の所信です。

生徒会執行部役員任命式

七日(金)、冬休み明け集会の前に、生徒会執行部役員任命式を行いました。

今回の選挙で当選した次の五人が生徒会執行部役員となりました。会長…三村さん(二年)、副会長…佐藤君(二年)・大川君(二年)、書記…河崎さん(二年)・中村さん(二年)

まず、任命書を渡す形で各役員に任命を校長が認証しました。次に役員を代表して副会長の佐藤君が「職務の宣誓」をしてくれました。その文面は今回当選した五人が自分たちで考え作成したものです。



また最後には、会長の三村さんが、役員としての決意や抱負を述べてくれました。詳細については、学校HPにも掲載していますので、そちらでご確認いただければと思います。

今後は各委員長等の選任に移っていきます。役員に限らず、多くの生徒たちから本校の伝統の基盤を作ろうとする意欲が伝わってきて、校長として頼もしい限りです。

再度、感染防止対策の強化を

既にご承知と思いますが、県の警戒レベルも一から二(警戒強化レベル)へと引き上げられました。それを受け、今後の教育活動等について見直しを行っています。これらの情報は学校HPに随時掲載していきますので、ご確認をお願いします。

再度、感染防止対策を強化することになりますが、何卒ご理解・ご協力をお願いします。



学校HPの
QRコード